

国語 第1学年 本はともだち むかしばなしを よもう

授業の設計図

元にした物：小学校学習指導要領（平成29年告示）の原文と、国立教育政策研究所の学習評価の参考資料。教科書の本文・問題・挿絵は入れていません（先生が入れる欄）。光村図書出版の令和6年度版『国語』第1学年下巻に載っている、読書の単元と昔話の教材。単元名と配当時数は光村図書の年間指導計画例（12月）による。光村図書のサイトの教材の一覧には、この教材の作者・訳者の記載がないので、訳者や再話者の表記は使う教科書の本文で確かめる。ほかの会社の教科書を使う学校は、同じ指導事項（〔知識及び技能〕(3)エ・C(1)カ・B(1)ウ）を扱う、昔話や本を読んで紹介する単元に置き換える。

この単元で子どもが最後にできるようになること

この単元を終えた子どもは、昔話を読んで好きなところを選び、「好きなところは、…ところです。わけは、…からです」の形で、わけを添えて友達に話せる。友達の好きなところやわけを聞いて、自分と同じ所や違う所に気付ける。学校図書館や学級文庫で日本や世界の昔話を選んで読み、好きなところとわけを書いた紹介カードを書いて、友達のカードから次に読みたい昔話を見付けられるようになる。

学習指導要領のどこに書いてあるか（原文）

学習指導要領の項目	原文
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(3)エ	エ 読書に親しみ、いろいろな本があることを知ること。
〔第1学年及び第2学年〕B 書くこと(1)ウ	ウ 語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫すること。
〔第1学年及び第2学年〕C 読むこと(1)カ	カ 文章を読んで感じたことや分かったことを共有すること。
〔第1学年及び第2学年〕〔知識及び技能〕(3)ア	ア 昔話や神話・伝承などの読み聞かせを聞くなどして、我が国の伝統的な言語文化に親しむこと。
〔第1学年及び第2学年〕C 読むこと(1)イ	イ 場面の様子や登場人物の行動など、内容の大体を捉えること。
〔第1学年及び第2学年〕B 書くこと(2)イ	イ 日記や手紙を書くなど、思ったことや伝えたいことを書く活動。
〔第1学年及び第2学年〕C 読むこと(2)イ	イ 読み聞かせを聞いたり物語などを読んだりして、内容や感想などを伝え合ったり、演じたりする活動。
〔第1学年及び第2学年〕の目標(2)	(2) 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。
〔第1学年及び第2学年〕の目標(3)	(3) 言葉がもつよさを感じるとともに、楽しんで読書をし、国語を大切にしてい、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(1)	(1) 単元など内容や時間のまとまりを見通して、その中で育む資質・能力の育成に向けて、児童の主体的・対話的で深い学びの実現を図るようにすること。その際、言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、言葉の特徴や使い方などを理解し自分の思いや考えを深める学習の充実を図ること。

学習指導要領の項目	原文
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(3)	(3) 第2の各学年の内容の〔知識及び技能〕に示す事項については、〔思考力、判断力、表現力等〕に示す事項の指導を通して指導することを基本とし、必要に応じて、特定の事項だけを取り上げて指導したり、それらをまとめて指導したりするなど、指導の効果を高めるよう工夫すること。なお、その際、第1章総則の第2の3の(2)のウの(イ)に掲げる指導を行う場合には、当該指導のねらいを明確にするとともに、単元など内容や時間のまとまりを見通して資質・能力が偏りなく育成されるよう計画的に指導すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(6)	(6) 第2の第1学年及び第2学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のエ、第3学年及び第4学年、第5学年及び第6学年の内容の〔知識及び技能〕の(3)のオ及び各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「C読むこと」に関する指導については、読書意欲を高め、日常生活において読書活動を活発に行うようにするとともに、他教科等の学習における読書の指導や学校図書館における指導との関連を考えて行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(7)	(7) 低学年においては、第1章総則の第2の4の(1)を踏まえ、他教科等との関連を積極的に図り、指導の効果を高めるようにするとともに、幼稚園教育要領等に示す幼児期の終わりまでに育ってほしい姿との関連を考慮すること。特に、小学校入学当初においては、生活科を中心とした合科的・関連的な指導や、弾力的な時間割の設定を行うなどの工夫をすること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 1(9)	(9) 障害のある児童などについては、学習活動を行う場合に生じる困難さに応じた指導内容や指導方法の工夫を計画的、組織的に行うこと。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(2)	(2) 第2の内容の指導に当たっては、児童がコンピュータや情報通信ネットワークを積極的に活用する機会を設けるなどして、指導の効果を高めるよう工夫すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 2(3)	(3) 第2の内容の指導に当たっては、学校図書館などを目的をもって計画的に利用しその機能の活用を図るようにすること。その際、本などの種類や配置、探し方について指導するなど、児童が必要な本などを選ぶことができるよう配慮すること。なお、児童が読む図書については、人間形成のため偏りがないよう配慮して選定すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(1)	(1) 教材は、第2の各学年の目標及び内容に示す資質・能力を偏りなく養うことや読書に親しむ態度の育成を通して読書習慣を形成することをねらいとし、児童の発達段階に即して適切な話題や題材を精選して調和的に取り上げること。また、第2の各学年の内容の〔思考力、判断力、表現力等〕の「A話すこと・聞くこと」、「B書くこと」及び「C読むこと」のそれぞれの(2)に掲げる言語活動が十分行われるよう教材を選定すること。
第3 指導計画の作成と内容の取扱い 3(2)コ	コ 世界の風土や文化などを理解し、国際協調の精神を養うのに役立つこと。

単元の目標

読書に親しみ、いろいろな本があることを知る（(3)エ）。昔話を読んで感じたことを友達と伝え合って共有し、好きなところを紹介するカードを、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書く（C(1)カ・B(1)ウ）。楽しんで読書をし、思いや考えを伝え合おうとする（学年の目標

(3))。

評価規準（3観点）

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①読書に親しみ、いろいろな本があることを知っている。(3)エ)	①「書くこと」において、語と語や文と文との続き方に注意しながら、内容のまとまりが分かるように書き表し方を工夫している。(B(1)ウ) ②「読むこと」において、文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(C(1)カ)	①進んでいろいろな昔話を読み、学習の見通しをもって、好きなところを友達に知らせるカードを書こうとしている。

単元の流れ

全8時間（書くこと4時間・読むこと4時間）。光村図書出版『国語』（令和6年度版）の年間指導計画例（1年）が、この単元に8時間（書くこと4・読むこと4）を配当している（12月）。次ごとの内訳（2・3・3）はこちらの案。学校の年間指導計画に合わせて増減する。国語の標準授業時数は第1学年で年間306単位時間（学校教育法施行規則 別表第一）。

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○知っている昔話を出し合い、先生の昔話の読み聞かせを聞く。 ○学習課題「すきな むかしばなしを みつけて、カードでともだちに しらせよう」を立て、学習の進め方を知る。	態①（発言・観察）
	2	○学級文庫や学校図書館の昔話の本を手に取り、日本の昔話と世界の昔話があることを知る。 ○読んでみたい昔話を見付け、読書記録に題名を書く。	知①（読書記録・観察）
第2次	3	○「おかゆの おなべ」を読み、出てくる人と、だれが何をしたかを確認する。	
	4 (本時)	○「おかゆの おなべ」の好きなところとそのわけを話し、友達の好きなところと比べて、同じ所や違う所に気付く。	思②（発言・ワークシート）
	5	○紹介カードの書き方（だいたい・でてくるひと・すきなところ・わけ）を確認し、「おかゆの おなべ」でカードを書いてみる。	思①（試しのカード）
第3次	6	○選んだ昔話を読み、紹介カードを書く。	思①（カード）
	7	○カードを声に出して読み返し、言葉や文のつながりを直して仕上げる。	思①（カード） 態①（観察）
	8	○カードを読み合い、読んでみたくなった昔話に付箋を貼って伝え合う。 ○学習を振り返る。	思②（付箋・発言） 知①（読書記録） 態①（振り返り）

本時の案

本時の目標：「おかゆの おなべ」を読んで好きなところとそのわけを話し、友達の好きなところを聞いて、同じ所や違う所に気付くことができる。(C(1)カ)

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
導入 (分)	1 前の時間に確かめた、出てくる人とお話の順番を、場面の絵（先生が教科書から用意する）で思い出す。 2 先生が「おかゆの おなべ」を読む。子どもは、好きなところで手をあげる。 ○「すきなところはどこですか」 【めあて】すきなところとわけをはなして、ともだちとくらべよう。 〈予想される児童の反応〉 ・おなべから、おかゆがどんどん出てくるころ。 ・おかゆがとまらなくなるころ。 ・さいごのところ。	・場面の絵を黒板にお話の順に貼り、好きなところを絵で指せるようにする。 ・好きなところは一つに決めなくてよいことを伝える。 ・子どもの反応の例は、使う教科書の場面に合わせて先生が書き直す。
展開 (分)	3 好きなところの絵に名前の札を貼り、そのわけをワークシートに書く。 （型）「わたしのすきなところは、…ところです。わけは、…からです」 4 ペアで、好きなところとわけを話す。聞いた人は「おなじ」か「ちがう」かを言い、わけを一つ聞く。 ○「ともだちのすきなところは、じぶんとおなじでしたか。ちがいましたか」 5 全体で、同じ場面を選んだ子のわけを比べ、違う場面を選んだ子のわけを聞く。 ○「おなじところがすきでも、わけはおなじでしたか」 〈予想される児童の反応〉 ・おかゆがいっぱい出てきて、びっくりしたから。 ・ぼくもおかゆがすきだから。 ・おなじところだけど、わけがちがった。 ・ともだちのわけをきいて、そこもすきになった。	・わけが書けない子には、「そのところをきいて、どんなきもちになったかな」と聞き、話した言葉を先生が書き取って見せる。 ・書くのが難しい子は、話すことを先にし、ワークシートには「…ところ」だけ書けばよいことにする。 ・ペアの話し方は、先生と子ども一人が前でやってみせてから始める。 ・全体では、同じ場面を選んだ子を二、三人指名し、わけの違いを板書に並べる。 ・お話の言葉を板書する所は、使う教科書から先生が書き入れる。 ・登場人物のよい・わるいを決める話になった時は、好きなところとわけの話に戻す。

段階	学習活動（○主な発問） ・予想される児童の反応	指導上の留意点（◎評価）
まとめ (分)	6 友達と話して、新しく好きになったところや、同じ・違うで気付いたことを話す。 7 振り返りを書く。 〈予想される児童の反応〉 ・となりのともだちとおなじところが好きだった。 ・ちがうところをえらんだともだちのわけをきいて、そこもいいなとおもった。	・振り返りは「ともだちとおなじだったこと・ちがったこと」を一文で書かせ、書けない子は話した言葉を先生が書き取る。 ・次の時間は好きなところを書いたカードを作ることを伝え、本時のワークシートをカードのもとに使えることを知らせる。 ◎思② 文章を読んで感じたことや分かったことを共有している。(発言・ワークシート)

板書の構造（縦書き・右から左へ）

右端に日付、題名、めあて。その左に、場面の絵（先生が教科書から用意する）をお話の順に右から左へ貼る。それぞれの絵の下に、その場面を好きと言った子の名前の札を貼る。中央に、同じ場面を選んだ子のわけを並べて書き、「おなじところ・ちがうわけ」が分かるように線で囲む。その左に、違う場面を選んだ子のわけ。左端に、話す時の型（「わたしの好きなところは、…ところです。わけは、…からです」）と、振り返りの書き出し。1年生がこの時期に読める字で書く。

つまずきやすい所と手当て

つまずきやすい所は五つ。一つ目、わけが「おもしろいから」の一語で終わる。手当ては、「どこが」「どうして」と聞き返し、話した言葉を先生が書き取って見せること（C(1)カ）。二つ目、お話の筋を全部書こうとして、カードに収まらない。手当ては、カードの欄を分け、好きなところは一つの場面に絞らせること。三つ目、文がつながらない（「…ところ」と「おもしろい」が別々の文に切れる）。手当ては、「好きなところは、…ところです。わけは、…からです」の型を示し、声に出して読み返させること（B(1)ウ）。四つ目、本を選べない、または長い本を選んで読み切れない。手当ては、先生が短い昔話の本を選んで並べておき、読むのが難しい子には読み聞かせて読んでもよいことにすること（(3)エ）。五つ目、自分のことだけを話して、友達と比べられない。手当ては、ペアで「おなじ」「ちがう」を必ず言う決まりにし、絵の下の名前の札で同じ場面を選んだ友達が見えるようにすること。

プリントの案

好きなところ ワークシート（本時）

上に、好きな場面に丸を付ける欄（場面の絵は先生が教科書から用意して貼る）。下に「わたしの好きなところは、…ところです。わけは、…からです」の型を書くマス目。いちばん下に、ペアの友達の好きなところが「おなじ」「ちがう」のどちらかに丸を付ける欄。C(1)カに合わせた。

紹介カード

「だいめい」「でてくるひと」「好きなところ」「わけ」の四つの欄と、小さな絵をかく枠。1年生用の大きいマス目。「好きなところは、…ところです。わけは、…からです」の型を薄く印刷した物と、型なしの物の二種類。B(1)ウに合わせた。

読書記録（よんだ むかしばなし）

読んだ昔話の題名を書く欄と、「にほんの むかしばなし」「せかいの むかしばなし」のどちらかに丸を付ける欄、好きだった度合いを花の数で塗る欄。〔知識及び技能〕(3)エに合わせた。

読み合いの付箋

「よんで みたく なったよ」と印刷した小さな付箋。友達のカードを読んで、読んでみたくなった昔話のカードに名前を書いて貼る。C(1)カに合わせた。

振り返りカード

「ともだちと おなじ だった こと・ちがった こと」「つぎに よみたい むかしばなし」の二つの欄。

出典：小学校学習指導要領（平成29年告示）（文部科学省）（https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1384661.htm）／国立教育政策研究所『「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料 小学校 国語』（2020年）。評価規準の文末と3観点の形、「書くこと」などの領域の書き出しの形（https://www.nier.go.jp/kaihatsu/pdf/hyouka/r020326_pri_kokugo.pdf）／同 参考資料の一覧ページ（国立教育政策研究所）（<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryoku.html>）／学校教育法施行規則 別表第一（国語の標準授業時数 第1学年306）。e-Gov法令検索（<https://laws.e-gov.go.jp/law/322M40000080011>）／光村図書出版 小学校国語 年間指導計画・評価計画資料（令和6年度版）の一覧ページ（<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s-kokugo/keikaku>）／光村図書出版 年間指導計画例 1年（Excel）「1年下巻」。単元名「本はともだち」・教材名・8時間（書くこと4・読むこと4）・12月の出典（https://www.mitsumura-tosho.co.jp/download_file/view/088f2846-983b-455d-b185-6c3a18a27671/368）／光村図書出版 教材別資料一覧 1年（令和6年度版）。教材名の確認と、作者・訳者の記載がないことの確認（<https://www.mitsumura-tosho.co.jp/kyokasho/s-kokugo/material1nen>）

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

